

科目区分	専門科目(必修科目)		
授業名	関係法規・制度		担当講師
内容 (授業概要)	美容師になるためには、必要な関係法規・制度を理解し、国家試験に合格する必要がある。この講義では、社会における法の役割、衛生法規の概要、衛生行政の概要をまず理解し、美容師法の理解へとつなげる。美容師法では、美容師試験や免許と登録をはじめとして、美容師が必ず知っておかなければならない諸規定について学ぶ。そして、行政処分や罰則について理解し、美容師の社会的責任の重さを理解する。また美容師法以外の関連法規についても知識を深めるものとする。	学科	美容学科
		学年クラス	1年
		設定時期	通年
		回数	20回
		時間数	1回=1時限 50分
		時間数	20時間
目標	法制度の概要や衛生行政の概要を理解し、美容師法の諸規定を説明できるようになり、美容師試験合格を目指す。		
授業計画	関係法規・制度	20h	1回 法制度の概要
			2回 法制度の概要
			3回 衛生法規の概要・衛生行政の概要・保健所
			4回 衛生法規の概要・衛生行政の概要・保健所
			5回 美容師法・用語の定義
			6回 美容師法・用語の定義
			7回 美容師試験・免許
			8回 美容師試験・免許
			9回 免許を受けてからの変更手続
			10回 免許を受けてからの変更手続
			11回 管理美容師・美容師の義務
			12回 管理美容師・美容師の義務
			13回 美容所の開設
			14回 美容所の開設
			15回 開設者が講ずべき衛生措置
			16回 開設者が講ずべき衛生措置
			17回 美容所外営業・立入検査
			18回 美容所外営業・立入検査
			19回 行政処分・罰則
			20回 行政処分・罰則
授業方法	講義形式		
評価方法	出席率10%・授業態度10%・期末試験80%で総合的成績評価とする。 考査は70点以上/100点で合格。70点未満は再試験を行う。		
教員紹介	法学部法律学科を卒業し、大学院法学研究科博士前期課程を修了し修士(法学)を取得。大学院法学研究科博士後期課程を単位取得満期退学。現在は4年生大学で法律系科目を担当している。		
教科書	関係法規・制度(日本理容美容教育センター 発行)		
用具	筆記用具、ノート、レジュメ		
履修上の 注意事項	事前学習としてしっかり教科書を読む。事後学習として配布されたプリント、練習問題をしっかり復習する。		

科目区分	専門科目(必修科目)			
授業名	関係法規・制度		担当講師	
内容 (授業概要)	美容師になるためには、必要な関係法規・制度を理解し、国家試験に合格する必要がある。この講義では、社会における法の役割、衛生法規の概要、衛生行政の概要をまず理解し、美容師法の理解へとつなげる。美容師法では、美容師試験や免許と登録をはじめとして、美容師が必ず知っておかなければならない諸規定について学ぶ。そして、行政処分や罰則について理解し、美容師の社会的責任の重さを理解する。また美容師法以外の関連法規についても知識を深めるものとする。		学科	美容学科
			学年クラス	2年
			設定時期	後期
			回数	10回
			時間数	1回=1時限 50分
			時間数	10時間
目標	法制度の概要や衛生行政の概要を理解し、美容師法の諸規定を説明できるようになり、美容師試験合格を目指す。			
授業計画	関係法規・制度	10h	1回	関連法規
			2回	関連法規
			3回	問題演習・復習
			4回	問題演習・復習
			5回	問題演習・復習
			6回	問題演習・復習
			7回	問題演習・復習
			8回	問題演習・復習
			9回	問題演習・復習
			10回	問題演習・復習
授業方法	講義形式			
評価方法	出席率10%・授業態度10%・期末試験80%で総合的成績評価とする。 考査は70点以上/100点で合格。70点未満は再試験を行う。			
教員紹介	法学部法律学科を卒業し、大学院法学研究科博士前期課程を修了し修士(法学)を取得。大学院法学研究科博士後期課程を単位取得満期退学。現在は4年生大学で法律系科目を担当している。			
教科書	関係法規・制度(日本理容美容教育センター 発行) ワークブック			
用具	筆記用具、ノート、レジュメ			
履修上の 注意事項	事前学習としてしっかり教科書を読む。事後学習として配布されたプリント、練習問題をしっかり復習する。			